

MB021061

肢体不自由児指導論

Teaching Theory for Children with Motor Disabilities

昼間（1年）クラス

担当教員 石倉 健二

単位数 2

単位区分 選択, 選必

開講学期 前期

開講曜日時限 火曜日5時限

授業方法 講

標準履修年次 1年

備考

【授業の目標及び期待される学習効果(授業のテーマ及び目標)】

以下の3点を本授業の目標とする。

- ①肢体不自由教育の歴史や教育課程、自立活動等の基本事項について学ぶ。
- ②肢体不自由についての特徴や指導法について理解する。
- ③肢体不自由児の指導計画を考えることができるようになる。

【授業の内容・計画】

本授業は講義を中心とするが、一部に実技も取り入れる。授業中に改めて指示するが、身体を動かしやすい服装の準備が必要になることがある。

- 《第1週》 授業オリエンテーション、肢体不自由教育と療育の歴史、事例提示
- 《第2週》 肢体不自由の生理・病理①：運動器の構造と機能
- 《第3週》 肢体不自由の生理・病理②：肢体不自由の病理と二次障害
- 《第4週》 肢体不自由の生理・病理③：運動発達と脳性まひの運動特性
- 《第5週》 肢体不自由の心理と心理臨床①：動作法と心理リハビリテーション
- 《第6週》 肢体不自由の心理と心理臨床②：動作法実習
- 《第7週》 肢体不自由児への援助・指導①：運動機能訓練、義肢装具、姿勢保持、等
- 《第8週》 肢体不自由児への援助・指導②：摂食指導、排泄指導、等
- 《第9週》 個別の指導計画など諸計画と実態把握、チームの発表
- 《第10週》 肢体不自由教育における教育課程の編成と自立活動
- 《第11週》 ICF（国際生活機能分類）と目標指向的アプローチ
- 《第12週》 事例検討：グループワークによる指導計画の検討①
- 《第13週》 事例検討：グループワークによる指導計画の検討②
- 《第14週》 肢体不自由の心理と心理臨床③：社会資源と関係者の健康管理
- 《第15週》 事例検討：全体討議による指導計画の検討

【成績評価の方法・基準等】

授業への参加状況（評価割合15%）

レポート（評価割合85%）

【テキスト・教材・参考書等】

テキストは使用せず、講義資料を毎回配布する。

【事前事後学修】

授業期間中に個別の指導計画を立案してもらうので、そのための準備作業を適時行うこと。

【その他】

事例検討（15回目）で、全体発表をしてくれる報告者3名を募集する。希望者は申し出てください。